

目次

序文	i
I. 環境政策優先度指数 JEPIX2010 の開発	1
1. はじめに	1
2. 環境政策優先度指数	1
3. JEPIX 2010 の概要	3
3.1 対象となる環境側面	3
3.2 エコファクタ・サマリ	4
3.3 日本のナショナル・エコバランス	4
4. JEPIX2010 エコファクタの算出過程	6
4.1 地球温暖化物質	6
4.2 オゾン層破壊物質	12
4.3 ダイオキシンを含む有害化学物質	16
4.4 揮発性有機化合物	17
4.5 浮遊粒子状物質	22
4.6 窒素酸化物 (NOX)	23
4.7 生物化学的酸素要求量 (BOD) による河川水質	27
4.8 化学的酸素要求量 (COD) による閉鎖性海域の水質	34
4.9 窒素 (N) 湖と閉鎖性水域の水質	40
4.10 全燐 (P) による湖と閉鎖性水域の水質	43
4.11 廃棄物管理	47
4.11.1 廃棄物 (最終処分量)	47
4.11.2 生活系ゴミ	48
4.11.3 事業系ゴミ	51
II. JEPIX を利用した「エコ指標」の開発	61
1. 問題の所在 - 資本市場と環境情報	61
2. 本研究の方法	62
(1) 対象企業 - 日経 225 社	62
(2) データソース - 環境報告書	62
(3) 環境負荷統合のための手法 - JEPIX	64
3. 本研究の中間成果とそこで明らかにされた問題点	65
(1) 日経 225 社環境負荷ランキング	65
(2) バウンダリ問題	65

4. 本研究の最終成果	66
(1) 第二次調査の内容	66
(2) バウンダリの区別から得られた知見－「付随的な環境負荷」の相対的重要性	68
(3) 経年変化への注目から得られた知見	70
5. おわりに	72
Ⅲ. 環境負荷の企業間比較に向けて：	
推定計算の導入による環境負荷の総合的把握の試み	75
1. はじめに：資本市場における不完全な環境情報の氾濫	75
2. 現状で欠落する環境負荷データの推定	76
3. 推定計算の基本プロセス（１）：「各企業の世界連結売上高」に 各企業の環境データ集計範囲を補正	77
4. 推定計算の基本プロセス（２）：「業界最大売上高企業」に企業規模 （世界売上高）を調整し「各企業の環境負荷」を拡大補正	79
5. 推定計算の基本プロセス（３）開示データから環境負荷の推計値を 算出するプロセス	80
6. 各企業の環境負荷とエコ効率の比較	82
7. 結びに	85
Ⅳ. 推計計算による業界分析	89
1. 化学業界	89
(1) 概況とコーポレートバウンダリ	89
(2) プロセスバウンダリ	91
(3) ドメインバウンダリ	92
(4) 非開示項目の推定計算	93
(5) 考察	96
(6) 展望と課題	96
2. 製紙パルプ業界	100
(1) 業界の概要	100
(2) 【生産量】によるスケールアップ	102
(3) 推計値をあてはめた比較	103
(4) 環境効率（エコ・エフィシアンシ）による比較	106
(5) エコファクタ 2010 版を使用の場合	107
3. 海運・陸運・空輸	110
(1) 業界の概要	110

(2) 推計値をあてはめた総 EIP 比較	112
(3) 環境効率による比較	116
4. 非鉄金属業	117
(1) 業界の概要	117
(2) 非鉄金属業界の研究結果	119
(3) 非鉄金属業界の分析	122
V. SHMAK Sheet 入力マニュアル ver 2.0	125
0. はじめに	127
1. CSR 報告書・有価証券報告書・Web ページ印刷について	128
2. SHMAK シート入力	129
2.1. マクロを有効にする	129
2.2. 企業数入力シート	130
2.3. 会計情報シート	131
2.4. ID・ID 計算用シート	133
2.5. バウンダリ補正情報	137
2.6. 計算結果（コーポレート別）シート	138
2.7. バウンダリ補正シート	138
2.8. 企業規模補正シート	139
2.9. 加重移動平均シート	140

分担執筆者

- I. 熊谷 敏（青山学院大学）協力 宮崎 修行（国際基督教大学）
- II. 東 健太郎（立命館大学）協力 宮崎 修行（国際基督教大学）
- III. 宮崎 修行（国際基督教大学）協力 東 健太郎（立命館大学）
- IV. 1. 佐久間 朋樹（国際基督教大学：宮崎研究室所属）
2. & 3. 牧野 廉（国際基督教大学：宮崎研究室所属）
4. 久保田 耕史（国際基督教大学：宮崎研究室所属）
- V. 牧野 廉（国際基督教大学：宮崎研究室所属）